

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2026年1月16日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2025年12月28日
明治大学卒業予定年月	2027年3月

留学先大学について

留学先国	オーストラリア
留学先大学	ニューサウスウェールズ大学(日本語名) University of New South Wales(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025年3月～2025年12月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<p><input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:</p>
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1学期: 4月上旬～7月下旬 2学期: 9月中旬～2月上旬	1学期: 2月上旬～4月下旬 2学期: 5月上旬～8月中旬 3学期: 9月上旬～11月下旬 4学期:
学生数	約64,000名
創立年	1949年

留学費用

留学費用項目	A 現地通貨 (AUD) (1 現地通貨 = 86-105 円)	B 日本円	備考
授業料	14,000	円	プリッジ型だったので前半の授業料は自己負担で、後半は他の交換方留学のプログラム同様明治大学の学費負担のみ。
宿舎費	週 410	円	最初の約 2 ヶ月半は友達に紹介してもらったホームステイ (週 450 ドル・一人部屋・オウンバスルーム・食事込み・平日:朝夜・土日:朝昼夜) その後はオンキャンパスの寮(週 410 ドル・一人部屋・6 人シェア・二つのバスルームをシェア・自炊)
食費	週約 60 (自炊分のみ)	円	自炊分はスーパー wp 利用することで比較的抑えられた。外食は一回 20 ドルは超える
図書費	0	0 円	図書館は利用した
学用品費	0	0 円	特に指定の教材はなく、各授業の前にアップロードされる資料や論文を読む
携帯・インターネット費	210	円	現地についてから SIM カードを買った(Telstra)大学でも寮でも wifi が使えるのでそもそもデータを使う場面もそこまで多くなかった。現地のなので、友達の e-sim と比べても通信がスムーズだと感じた。また、その場で使える状態にしてくれたので簡単でわかりやすかった。値段に関しても約 10 ヶ月で 2 万円ほどだったので大手の会社を選んだ。
現地交通費	最大でも週 50 ドル以内	5 円	オンキャンパスの寮在住(大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	博物館・美術館・オペラハウスの見学ツアーなど入館料がかからないところが多く、また寮のイベントを利用することで無料や通常の半額で行けることもあった。
旅費(留学中)	5,000	円	旅費は 50 万と決め、予算内で行けるとことに行った。 (都市) メルボルン・ゴールドコースト・ ブリスベン・アーリービーチ(クルーズ船)・パース・ニュージーランド
被服費	¥	円	通年を通して留学したので冬服は現地で買うことも多かった。日本と同じくらいで買うこともできる。
医療費	0	0 円	病院には行っていません
保険費		95,2601 円	形態: 明治大学指定のもの /OSHC(Medibank)
渡航旅費		円	
ビザ申請費		16 万円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	

合計 ※現地通貨 およ び 円	(= 円)	円	
総計(A+B) ※円		円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：羽田 目的地：シドニー 経由地：

復路 出発地：シドニー 目的地：成田 経由地：パース

*パースから日本への直行便があったので、2 泊し、観光してから帰国した

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社： 料金：

復路 航空会社： 料金：

∴合計：

航空券購入方法

旅行代理店(店名：)

インターネット(サブ名：公式サイト)

その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前: UNSW Village) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

前半 2ヶ月は友人の紹介・後半の寮はインターネットから

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

留学前に先輩方の報告書から寮を探すのが難しいという情報があった通り、寮探しは苦労した。

希望は寮だったが、日本からだと情報も現地にいるよりも少ないので最初の 2ヶ月は友人にホームステイ先を紹介してもらった。現地でその後の寮を見つけた。

ホームステイと寮を両方経験し、感じたことを両方にメリット・デメリットがある。ホームステイの場合は、通学時間が長くなる傾向がある。特に UNSW は市内に位置しており、ホームステイ先の家が郊外になることも多いため、私の場合は、通学に片道約一時間半程かかった。日本にいる時も通学時間は同じくらいだったのであまり懸念していなかったが、交通費も高くなり、慣れない地での長時間通学は疲れる部分も多かった。また、学校だけでなく、友達と出かける際も移動時間が長くなり、帰宅時間も遅くなることもあった。しかし、ホームステイ先では一人部屋に加え、オウンバスルーム(トイレ・シャワー)を利用でき、渡航直後で慣れない状況でリラックスできる状況は整っていた。ホストファミリーやハウスメイトは運頼りな部分も大きい。

寮は、キャンパス内に位置しているため、多くの人が想像するようなザ・留学!という雰囲気を感じることができる。また、私の場合は一つのユニットに 6 人が生活し、一人部屋、2 つのシェアトイレ・シャワー、キッチンやリビングは共用するという形態だった。メリットとしては通学時間がほとんどなく、大学内で行われているイベントにも気軽に参加できたり、授業間の休み時間には帰宅することもできるため、お昼を買う必要がなかったり、休憩に充てたりと隙間時間を効率的に使用でき、余分な支出を抑えることもできた。また、私は良いハウスメイトに恵まれたため、楽しく生活できた。常に誰かが家にいる状況になるため、英語を話す機会が常にあり、暇な時には話しかけに行ったり、お昼を作り、一緒に食べたり生活がとても楽しかった。しかし、どのようなハウスメイトに当たるかは運であり、またオーストラリアの寮では男女混合寮を基本としている寮も多く、同性のハウスメイトだけになるか保証できないと入居前に言われた。私の寮ではほとんどの場合は男女別のユニットの希望が通りやすいということだったが、同じ大学の友人は入居日当日に異性のハウスメイトがいることがわかったケースもあった。また、寮は国際交流や異文化理解には非常に適した環境ではあるが、その分、文化の違いがストレスになることもある(パーティーによる騒音・恋人を家に頻繁に招く・掃除をしないなど)。私の場合はそこまでストレスに感じることはなかったが、一度夜中の 1 時まで 6、7 人を家に招き、音楽をかけ、パーティーをしている子がいたため、それをきっかけに部屋のルールをみんなで見直し、改善された。

どちらを選ぶかはその人によると思うが、両方にデメリットもあるため、よく考えた方が良いと思う。

個人的には留学前に心配していたことの一つで友達作りがあつたが、寮に入ることで自然と友達になれ、買い物や海に泳ぎに行ったり想像していた留学生生活を送れたため、寮がおすすめ。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例:現地の病院、学内の診療所)

なし

あり(治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり(問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

普段に生活していて身の危険を感じたことはないが、帰国直前にボンダイビーチでの銃撃事件が起き、多くの人が亡くなつた。ボンダイビーチは有名なビーチであり、私自身も何度も行ったことがあったので身近な場所での銃撃事件にはとても驚き、恐怖を感じた。多文化社会と言われるオーストラリアでも増え続ける移民に対し、マイナスな感情を抱く人も増えてきている。留学中には大規模な反移民デモが起き、留学生間の中では情報が共有され、当日は近づかないように注意していた。英語圏の国の中では比較的治安の良い国、地域であるが、文化や宗教の対立が、近年深まっているように感じた。特に心配する必要はないが、海外で生活していると忘れずに生活することが大切である。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

特に問題なく利用できた・sim の契約を現地で行った場合は帰国前に解約することを忘れないように。帰国後は手続きが面倒になる可能性があると会社のホームページに書かれていた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

海外でも使用できるキャッシュカードも事前に申請し、使用。

ただほとんど現金を使う場面はなかった。

(私の場合はホームステイ中の家賃が現金手渡しだったため、ATM で現金を下ろしていた)

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

日本食、生活用品、薬も日本で売られているものと同じものが売られているので、高いが買おうと思えば買うこともできる。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

渡航前に日本の銀行の窓口から送金した

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
6 単位		<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: _____)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他(_____) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Rethinking the social		
科目設置学部・研究科	Department of Arts	
履修期間	winter term	
単位数	6(units)	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	チュートリアル・講義 (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 360 分が 4 回(1週目は 3 回)回	
担当教授	Melanie White	
授業内容	どのように”社会”を定義するか、また過去に社会について定義した学者の考えを 1 授業、1 テーマで学んだ。また、各々定義された社会がどのように形成され、維持するのか、人間がどのようにそこに関係していくのかを考えた。	
試験・課題等	winter term の授業なので通常の授業数を半分の機関で開講されていました 課題は全 9 回の授業のポートフォリオを 6 回分以上提出。 最終週にレポートを提出しました。 これらの課題に加え、授業(特にチュートリアル)での授業貢献度が成績に反映される。	
感想を自由記入	社会学系の授業だったので、実際に起きていることを学ぶというよりは、自分がどのように解釈するのか、どのように感じるのであるのか主観が重要視される授業であった。特にチュートリアルでは、毎回グループになり予習の内容についてどのように理解しているか確認し、共感する部分や異なる自分の意見を出し合った。一つ一つの言葉の使い方からその学者の表現したいことを汲み取るため、使われている言葉を注意深く考慮しなければならなかった。日本語でも作者がどのような意図でその後を使用したのか読み取るのは難しいため、英語の語彙やニュアンスにも興味を持つきっかけになった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Australia's Asian Context	
科目設置学部・研究科	Arts
履修期間	term3
単位数	6(units)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアルが週 1 回 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が講義:120 分・チュートリアル:60 分)が 1 回
担当教授	Sally McLaren
授業内容	アジアとオーストラリアのつながり、関係について毎週異なったテーマ(教育、戦争、観光、移民など)をもとに学ぶ。
試験・課題等	week3 と week10 にオンラインでのテスト week4 と week9 にレポート(1,000 words/1,800 - 2,000 words)/
感想を自由記入	この授業が最もオーストラリアで学ぶことに意味のある授業だと感じた。私が留学先にオーストラリアを選んだ主な理由の一つにアジアの外からアジアを見てみたいという理由だった。この授業では主にオーストラリアとアジアがどのように歴史的、政治的、経済的に繋がりを持つか学んだ。しかし、最も印象的だった点は、この授業の最後の課題レポートのテーマが、オーストラリアはアジアかアジアではないのかというテーマだったことである。私は留学前にオーストラリアの歴史的な側面からオーストラリアは西洋の国であって、アジアではないと考え、だからこそオーストラリアを選び、アジアをアジアの外から学ぼうとした。しかし、そもそも文脈や立場、研究者によりアジアの定義はことなり、絶対的なものはない。私は深く考えることなく、イギリスの植民地であった過去や白人の人が多く住むというイメージからオーストラリアはアジアかどうかという初步的な疑問を考えたことがなかった。しかし、スポーツではオーストラリアはアジアに振り分けられ、地理的な条件だけを考えるとアジアに含まれることも理解できる。この授業を通して、単にアジア系移民の多さや地理的な側面だけではなく、アジアとはという根本的な疑問からオーストラリアとアジア諸国との繋がりを学ぶことができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
International development	
科目設置学部・研究科	Arts
履修期間	term3
単位数	6(units)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル・講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 180(講義:120 分・チュートリアル:60 分が 1 回)
担当教授	Lana Tatour
授業内容	国際開発について、各週のテーマに沿って考える。 例) 女性の開発、開発途上国における開発援助、先住民族の開発、子供の開発など
試験・課題等	中間課題:media article という blog 形式のレポート 950 words 最終課題:Research essay 2,500 words
感想を自由記入	国際開発学という授業名の通り、国際社会における開発を学んだ。各週でテーマが異なり、開発とはそもそも何かという疑問から、開発途上国における先進国からの開発援助、先住民族の開発などテーマは多岐に渡った。開発の解釈で一般的な経済的な面だけでなく、その土地、文化、宗教に根付いた国際開発のあり方を考えるきっかけになった。最も印象に残ったテーマは先住民族の開発である。国際開発では主に冷戦の文脈で使われてきた第三世界という単語に乗っ取り、先住民族のことを第四世界と示している。先住民族の開発が一般的に難しいと考えられるのは、開発途上国のように国際社会から見たときに開発状況が分かりやすくないことが挙げられる。先住民族は国家の中に含まれているため、特に先進国の先住民族は国自体は開発が進んでいると考えられると、国際社会から見たときに先住民族の開発は国家に隠れてしまうこともある。また、先住民族は環境、伝統、溝からの生活スタイルに重きを置くことが多く、これらの指標は近代国家が基準とする指標と離れてしまうことが多い。また、女性や子供の開発についても先進国の価値観、フィルターで見ているうちには本来の意味での開発ではないということも印象に残った。特に国際社会における開発援助では援助する側とされる側の需要と供給が一致しないことが多い。先述した女性の権利、開発に関して、授業内ではイスラム教の女性たちのインタビューをした文章をもとに考えた。多くの先進国からするとイスラム教の女性たちの権利が抑圧されていると考えられることもあるが、当事者の彼女たちは本当にそのように思っているのか。また、子供の開発、児童労働に関しては、ただ単に児童労働を禁止することがその子供たち、家族を助けることになるのか。ただ単に禁止することはなぜ児童労働をしなければならない状況に陥っているのか、児童労働にある背景を看過しているとも考えられる。このように、開発と言っても経済的な面ではなく、さまざまな角度から国際開発を考えることができ、また開発を妨げている背景を当事者に寄り添いながら理解しようと心がけないと開発は達成されないと感じた。また、それこそが国際開発をも複雑にしている理由にもなると思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Contemporary Issues in Goverment and Global Politics	
科目設置学部・研究科	Arts
履修期間	term3
単位数	6(units)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル・講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 180(講義:120 分・チュートリアル:60 分)分が 1 回
担当教授	Madison Cartwright
授業内容	現在の国際問題(例:ガザ・ウクライナ侵攻・トランスジェンダーアスリーとのスポーツ参加)や何が国際社会を構成し、維持しているのか特定の出来事や国に着目しながら考える。
試験・課題等	week6: 批評的なレポート week11: 各授業のポートフォリオ(各 400 字)
感想を自由記入	この授業では特定の事例について勉強するため、明治大学で学んだ理論的な国際関係論の知識が役に立ったと感じた。また、グループディスカッションでは様々なバックグラウンドの学生がいたため、新たな意見を得ることもできた。特にパレスチナ問題やジトランスジェンダーのスポーツ参加などのテーマについては日本よりも活発に議論されているため、強い意見を持つ人も多かった。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えて下さい。また、その企業を選んだ理由も教えて下さい。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えて下さい。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)

就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。

ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。

就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えて下さい。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	英語試験(TOEFL/IELTS)の勉強・出願・学内選考)
	8月～9月	
	10月～12月	留学先から正式な offer/ビザ申請・取得(当日中)・滞在先確保
留学開始年	1月～3月	航空券購入・出発(3月)
	4月～7月	4月中に5月下旬からの滞在先(オンキャンパス寮)確保・試験
	8月～9月	8月1周目から3週目まで休み
	10月～12月	課題(11月末)・12月帰国
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私が実際に留学前に悩んでいたことについて実際に留学してどのように感じたかを述べる。

オーストラリアを選んだ理由)

私がオーストラリアを留学先として選んだ理由は複数ある。一つ目は、国際関係論やアジア太平洋地域について学ぶことができると思ったからである。国際日本学部で、地域研究系の授業や国際政治、経済などの授業をとる中で、より深い学びをしたいと考え、また中学生の頃から留学に挑戦してみたいという思いがあったため、この両方を叶えられる留学先を探した。私が調べた中で、国際関係論を学ぶのに適したがアメリカ、イギリス、オーストラリアであった。この留学を申し込み前に、2年後半出発の交換留学で別のアメリカの大学に出願したが、学内選考で落ちてしまい留学できなかった。また、イギリスは語学要件の高さや生活コストの懸念から出願できなかった。春学期からの留学先はほとんどがオーストラリアか韓国だったため、オーストラリアを選んだ。しかし、オーストラリアは英語要件が他の国に比べ高いため、ブリッジ型をオファーしている UNSW Sydney で留学することにした。また、UNSW はオーストラリア国内、世界的にもレベルが高い大学として知られており、国際系の学部も高い評価をでていたため私の勉強したい内容と会っていたと感じる。しかし、ほとんどは語学試験の結果に基づいて、出願できる大学を選んだ形である。

二つ目は、治安についてである。個人的に母親が高校生の時にオーストラリアに留学しており、また自分自身も何度も旅行で訪れたことがあり、初めての土地に留学するよりはハードルが低かった。加えて、世界的に見るとオーストラリアは比較的治安の良い国であることも魅力だと感じた。しかし、帰国直前で大規模な銃撃事件が発生したり、大規模移民に反対するデモや暴動が頻繁に起きていたため、一定の注意を払うことは必要である。

また、多くの移民が生活する多文化社会であったこともオーストラリアを留学先に選んだ主な理由である。オーストラリアに留学することでオーストラリアだけでなく、世界中から来る留学生と友人になることができ、また街中にも多国籍な文化が混ざっているため、食事や祝祭など様々な文化を感じることができる。実際に大学の寮でのハウスメイトはインド、シンガポール、クウェートと様々な国籍だったため、お互いの国の食事を共有したり、歴史についても学ぶことができた。また、留学するにあたり、実際に留学を経験した友人に話を聞くと人種差別を経験した話もあった。オーストラリアは多くのアジア系移民が生活していることから他の国に比べると人種差別はすごく少ないと感じた。実際に留学中に人種差別だと感じるようなことはなかった。

滞在先について)

オーストラリアは現在、住居不足が社会的に大きな問題となっており、オーストラリアに留学する留学生にとって滞在先の確保は難しい。私はブリッジ型だったため 3 月からの留学となり、すでに term1 の寮を契約期間を過ぎていたため、term1 の間は寮に滞在することができなかった。前年にオーストラリアに 1 ヶ月留学していた友人がその時のホームステイ先を紹介してくれたため、ホームステイにすることにした。しかし、留学開始以前からホームステイに少し不安もあり、できれば寮がよかつたため 2 ヶ月半ほどの契約にし、残りは現地に行って寮を確保することにした。インターネットで調べるとワーキングホリデーで渡航する人は、滞在先が決まっていない状況で行くことがほとんどであり、実際に現地に行ってから内見をし、決定することが一般的と聞いたため、残りの留学期間の滞在先に渡航した後に探すことにした。実際に渡航してから term1 で入居できなかった寮を term2 から申し込み、入居することができた。UNSW で知り合った 1 年間留学する日本人留学生のほとんどがオンキャンパス寮に入居しており、オンキャンパスでなくとも外部の学生寮に滞在している人が多かった。私自身も term2 からオンキャンパス寮を申し込んだ際に、一人部屋があり、4 人でキッチン、2 つのシャワー、トイレを共有する形式を申し込んだがキャンセル待ちをしても入居することができなかった。一般的に 1 人、2 人でシェアをタイプはすぐに埋まってしまい、入居することが難しい。または、家賃がものすごく高くなる傾向がある。留学前では事前に寮を申し込まなければ入居できないという情報もあったので、早め早めに寮を探し始めたが、オンキャンパスの寮は私のように term2 からの入居の場合明けかもしれないが、5 月下旬入居で、入居できるのか連絡が来たのが 4 月の半ばであった。留学は様々な書類や申請を準備しなければならないので、早め早めに準備を進めることは重要だと思うが、オンキャンパス寮に関しては 1 ヶ月前などの直前にならないと入居が確定しなかったので、焦りすぎないでも大丈夫なのではと感じた。しかし、一概にオンキャンパス寮と言っても複数あり、私の寮が特殊だった可能性もあるので、余裕を持ち、注意深く情報を集めることは非常に重要である。また、大学外にはなるが、キャンパスの周辺に位置し、大学と契約している滞在先も多くある。オフキャンパスの物件は大学の滞在先探しのホームページに登録すると閲覧することができ、様々な形態があるため柔軟性はある。滞在先に関しては、様々な選択肢があるので自分に会うと思う形を探してみてほしい。

留学生活について)

総括して、留学生活は人生においてとても特別な経験になったと思う。渡航直後は、思ったように英語を話せなかったり、現地にいる日本人留学生と比べてしまったりすることもあるかもしれないが、自分のペースで留学と向き合うことが大切だと感じた。事前学習でも言っていた通り、日本から出て一人で生活することは不安が伴い、全て思った通りに行くとは限らない。しかし、必ず自分にあった留学生活を満喫できると思う。私自身も留学生活前半は、思ったよりも英語が話せなかったり、「友達欲しい～」が口癖だったりしたが、少し時間はかかったとしても友達はできる！留学後半でも、寮の友達 5 人とみんなで話していると会話が早過ぎて、何を話しているのかわからないこともあるが、聞けば教えてくれるし、後半になりより仲良くなると私が英語がわからなくて考えてそうな顔をしているときは、説明を付け加えてくれたりした。留学を通して感じたことは、思い切って英語を話してみると絶対に誰かは理解しようしてくれるし、特にオーストラリアはたくさんのバックグランドを持つ人が多いため、様々なアクセントのある英語を話す。実際、私のハウスメイトの一人の英語はインド訛りだったため、初めは何度も聞き返していたが、後半になるにつれ、お互いの英語を理解出来るようになった。オーストラリア生活で友達とビーチやハンバーガー、カジノなどオーストラリアでの生活を満喫することができて楽しかった。特にシドニーといえば、ビーチというイメージがあると思うが、実際に海岸沿いを歩いたり、シノーケリングをしたり、満喫できた。また、オーストラリアならではの先住民族アボリジニに関する展示や、オーストラリアの歴史も博物館で学ぶことができる。無料の博物館も多くあるため、ぜひ訪れてみて欲しい。休暇中には日本から来てくれた友達や寮のハウスメイトと別都市に旅行もした。シドニーの中心部はそんなに大きないので、電車やバス、フェリーを使うこといろいろなところに行ける。特にUNSWからは 15-30 分で行けるビーチもたくさんあるので、課題に疲れた時はビーチに行き、リフレッシュしていた。しかし、10 ヶ月もいると文化や価値観の違いから人間関係で疲れてしまうこともあると思う。私自身も、少し疲れてしまったことがあった。そんな時は一人で抱え込まずに、信頼できる友達、同じ大学に留学している日本人、日本にいる友達に相談することが大切である。日本にいる時よりも留学中の方が孤独を感じやすかったり、時間がアリするので一人で抱え込まないで欲しい。大学生活については、想像していたほど予習が多すぎるということはなかったが、チュートリアルでは事前に課される論文や記事を読んだ上でグループで話すため、予習に時間を割けばそれだけチュートリアルを有意義なものにできると感じた。また、専門的な内容だと英語で話すことが難しい時もあるため、他の学生よりも予習に時間がかかった。しかし、私の拙い英語でもみんな理解しようしてくれたり、意見を付け加えてくれたりするため思い切って発言してみると良いと思う。私も初めてクラスで発言した時はものすごく緊張したが、教授も他の生徒も優しいので、ぜひ留学中の学びを最大化して欲しい。